

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>2 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切にし他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 「にしおつスタディカップ」や考査前の「学習強化週間」の取り組みも一定の成果が見られた。また、土曜講習、長期休業中の講習、学習合宿にも多くの生徒が参加し、意欲的に取り組んだ。しかし、学校全体としては、生徒の自主的な学習時間の増加には繋がっていない。生徒の主体的な学習を促すためには、ICT等を活用した授業改善の取組が喫緊の課題である。</p> <p>2 部活動の加入率・定着率に課題があり、学校全体として活気ある集団とはなり得ていない。部活動活性化のための新たな取組が必要である。規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が取り組み、一定の成果が見られた。スマートフォン等の使用に関するルールやマナーの徹底、交通安全、環境美化等に関する課題については、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を行った。</p> <p>4 広報活動については、説明会の実施、ホームページの更新、広報誌の定期的な発行と中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信したが、志願者の増加には至らなかった。今後も、さらに地域の中学校等との連携を深め、本校の良さを積極的にアピールしていく必要がある。</p>	<p>1 生徒の主体的な学習による学力の向上と夢実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの積極的な活用等により授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の学習意欲を高める。さらに、クラウドサービスを利用した学習支援システム(Classi)を活用し、生徒の主体的な自学自習時間を増加させ、希望進路実現に向けた学力向上を図る。 <p>2 豊かな人間性と規範意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。 ユネスコスクールとして、国際教育等の取組をさらに充実させ、持続可能な開発のための教育を推進する。 生徒がけじめのある学校生活を過ごすことで、規範意識の向上と公德心の育成をめざし、全教職員で一致した指導を図る。 <p>3 広報活動による情報発信の充実を図る。</p> <p>・学校説明会、学校HPや「西乙だより」の内容をさらに充実させるとともに、さまざまなツールを積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策(取組計画)	評価	成果と課題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○教職員全体が課題改善に向けた連携と調整を図る。 ○ICTの活用により、情報の共有化と業務の効率化を推進する。	B	・ICTの活用により、情報の共有化・業務の効率化が進みつつあるが、まだまだ教員間での温度差があり、より多くの教職員がICTを活用できる体制を整備することが必要である。
学習指導と 進路指導	◇授業改善	○ICTの積極的な活用により授業改善を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、生徒の学習意欲を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により、生徒の興味関心を高める授業改善が進められている。 「Classi」を活用し、学習時間調査やポートフォリオの作成等に取り組ませたが、日常的な活用には至っていない。さらに生徒の利用を促進していくことが求められる。 土曜講習、長期休業中の講習、学習合宿等に多くの生徒が参加したが、いかに実践力に結びつけていくかが課題である。 学校全体での国際交流に取り組む等、本校の特色である国際教育を推進した。 ユネスコスクールとして、ESD交流会のイベントに参加した。今後は、「SDGs」をテーマに探究的な学習の時間等に取り組むなど、ユネスコスクールとしての活動を活性化させたい。 進路指導部と学年部が連携し、生徒の希望進路実現に向けて指導を行ったが、決定率100%には至らなかった。 図書委員会を中心に、図書館利用を促進するさまざまな取組を実施したが、生徒の読書意欲の向上にまではつなげていない。
	◇学力の向上	○「Classi」の活用により、生徒の主体的な自学自習時間を増加させ、学力向上を図る。 ○土曜講習、長期休業中の講習の充実を図り、実践力の養成を支援する。	B	
	◇国際教育の推進	○国際関係者会議を中心に、学校全体としての取組をすすめる。 ○ユネスコスクールとして、国際教育等の取組を推進し、持続可能な開発のための教育を推進する。 ○海外研修旅行等を通じて、生徒の主体性を引き出し、成功させる。 ○アーリントン高校、シャコピー高校等との国際交流活動を充実させる。	B	
	◇希望進路の実現	○進路指導部と学年部の連携を密にし、進路希望に応じた指導を徹底し進路決定率100%を目指す。 ○大学見学会や学年の進路行事、進路HRを充実させ、その活動をポートフォリオ等に記録し、主体的に学ぶ意欲を喚起する。	B	
生徒指導と 特別活動	◇図書視聴覚教育の充実	○他分掌や各教科との連携を密にし、図書室や視聴覚教室の利用を促進する。 ○新着本等の紹介やディスプレイを工夫し、生徒の読書意欲の向上と図書館利用の促進を図る。 ○図書委員会活動の活性化を図り、生徒の自主的な活動を支援する。	B	
	◇規範意識の醸成	○遅刻指導を徹底し、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○頭髪、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致して行う。 ○各学期に状況調査を実施し、授業規律確保のための指導を徹底する。 ----- ○生徒の自律を促すことで、生徒がスマートフォン等を適正に使用できるようにする。	B	
	◇特別活動や部活動の充実	○部活動や学校行事に積極的に取り組ませることで、活気のある集団作りとリーダー育成を図る。 ----- ○部活動体験期間の充実を図り、部活動部員対象行事を設定する等により、部活動の加入率と定着率を高める。	B	
	◇交通安全指導の推進	○地域、PTAとも連携し、定期的に登下校時の安全について啓発する。特に、自転車利用者の登下校時における通学安全指導を強化する。	B	
健康安全	◇人権教育の推進	○人権学習を通じて生徒の人権意識を高めるとともに、あらゆる教育活動において人権感覚を養う指導を行う。	B	
	◇環境・美化の推進	○日常の清掃活動への指導をきめ細やかにを行い、ゴミの分別の徹底や保健委員会による環境美化活動等により、学校全体の意識向上を図る。	B	
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○保健調査等により生徒の健康実態を把握し、関係者間の連携を密にして、生徒の健康管理を行う。 ○スクールカウンセラー及び地域の専門機関との連携により、教育相談、特別支援の機能を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> HR教室でのペットボトルやごみの分別は定着しつつあるが、その他の場所では分別が不十分な箇所がある。 保健部と学年部が密に連携し、個々の生徒への対応を丁寧に行っている。 教育相談会議、特別支援教育会議等を通じて、課題のある生徒の理解や支援に取り組み、適切な対応を行っている。

評価領域	重点目標	具体的方策（○取組計画・◇評価指標）	評価	成果と課題
魅力ある学校づくり	◇広報活動の充実	○学校説明会の内容を充実させ、個別相談会や中学校教員向け説明会等で本校の特色を発信する。 ○HPのリニューアルやこまめな更新、広報誌の配布等により、中学生や保護者に積極的に情報発信を行う。 ○地域への情報発信と新たな地域の開拓により、志願者数を増加させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、個別相談会等で本校の特色を発信することができた。 ・ホームページのこまめな更新、広報誌の配布等により、中学生や保護者への情報発信を積極的に行った。 ・積極的な広報活動を展開したが、志願者数の増加にはつながらなかった。 ・ICT教育推進のため、限られた予算を有効活用し、環境整備に努めた。
	◇安心・安全な学校環境づくり	○ICT教育推進のため、教員と連携し、機器の選定、購入計画を進め、環境整備を行う。 ○施設・設備の安全点検を日常的に行い、危険箇所の早期発見、改善に努める。	B	
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今の高校生のニーズをしっかりと分析して特色化につなげるべきである。 ・ICT環境を整備しても、それをどのように活用できるかが鍵である。 ・公立高校の志願者数を増やすには広報活動にもっと予算を投入すべきである。 ・学校評価は4段階ないしは5段階で評価した方が改善点が明確になる。 			
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業改善・業務改善をさらに推進する。 ・生徒の自主的な活動（部活動・学校行事等）を活性化させる取組を継続する。 ・総合的な探究の時間等を活用し、ユネスコスクールとしての本校の特色をさらに外に積極的にアピールしていく。 			